



平成 21 年 7 月 8 日

各 位

会 社 名 株式会社 バ ナ ー ズ
代 表 者 代表取締役 守屋 武
(コード番号 3011 東証第二部)
問 合 せ 先 取締役総務部長 藤牧由亘
電 話 (048)523-2018

子会社の異動に関するお知らせ

当社は、平成 21 年 7 月 8 日開催の取締役会において、当社が 98.3%の株式を保有するフジキャスティング株式会社の全株式を売却することを決議いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 異動の理由

平成20年10月29日付「事業の現状、今後の展開について」にてお知らせいたしましたとおり、当社は子会社フジキャスティング株式会社におきまして、ベトナムでの鋳・鍛造品事業を進めておりましたが、米国のサブプライムローン問題に端を発した世界的な金融不安と国際的な実態経済の低迷が予想される中、ベトナム経済における急激なインフレの進行による資材・原材料の高騰、人件費の高騰と優秀な人材の確保が困難である等の様々な困難な課題に直面し、その後の当該鋳・鍛造品事業の展開につきまして慎重に検討を続けてまいりました。その結果、当社においては、国際的な実態経済が回復基調に転じるまでにはなおも時間を要することが予想される中では、当該鋳・鍛造品事業を短期間のうちに軌道に乗せ、事業として収益を確保できる可能性は低いと判断いたしました。現在、当社において取りうる最善の施策としては、既存事業である不動産利用事業および自動車販売事業に経営資源を集中し、一層の充実化を図ることにより収益増大を図り、事業効率と収益性の改善を図ることにより事業収益基盤の強化に取り組むことと判断し、当該鋳・鍛造品事業の継続を中止し、子会社フジキャスティング株式会社を売却することにいたしました。

2. 異動の方法

当社が保有するフジキャスティング株式会社の全株式を株式会社インベストサイゴンに売却いたします。売却先の選定にあたりましては、複数の売却先候補と交渉し、当社に最も有利な条件で売却できる売却先という理由で株式会社インベストサイゴンを選定いたしました。

3. 異動する子会社の概要

- (1) 商号 フジキャスティング株式会社
(2) 代表者 加藤 勝
(3) 事務所所在地 東京都港区芝大門1丁目10番1号
(4) 設立年月日 平成19年9月20日
(5) 主な事業の内容 鋳物・鋳型の研究・開発、製造・販売及び輸出入
バルブ関連施設用機器の開発、製造・販売及び輸出入
精密部品の開発・販売および輸出入
非鉄金属の販売および輸出入
企業の設立・合併・買収・株式公開に関するコンサルティング業
(6) 資本金の額 3億円
(7) 発行済株式数 6,000株(平成21年6月30日現在)
(8) 株主構成 当社 5,900株(98.3%)
(9) 最近2年間の財政状態及び経営成績

	平成20年3月期	平成21年3月期
純資産(百万円)	240	△1,024
総資産(百万円)	1,315	55
1株あたり純資産(円)	40,084	△170,808
売上高(百万円)	—	—
営業利益(百万円)	△4	△6
経常利益(百万円)	△59	△179
純利益(百万円)	△59	△1,265
1株あたり純利益(円)	△9,915	△210,893
1株あたり配当金(円)	—	—

(10) 当社との関係

資本関係：上記(8)のとおりであります。

人的関係：該当事項はありません。

取引関係：金763百万円を長期貸付金として貸し付けております。

※フジキャスティング株式会社への上記貸付金につきましては、今後、フジキャスティング株式会社の株式の売却先であります株式会社インベストサイゴンが連帯保証をさせていただくことになっております。

4. 異動の日程

- 平成21年7月8日 取締役会決議
平成21年7月10日 株式譲渡

5. 譲渡の相手先の概要

- (1) 商号 株式会社インベストサイゴン
(2) 代表者 代表取締役 櫻井 重男
(3) 事務所所在地 東京都港区芝大門一丁目10番1号
(4) 設立年月日 平成19年8月13日

(5) 主な事業の内容 国内及びアジアへの投資運営及び投資相談等

(6) 資本金の額 5百万円

(7) 当社との関係

資本関係：株式会社インベストサイゴンが当社株式 7,037,200 株（議決権の 3.2%）を所有（平成 21 年 3 月 31 日現在）

人的関係：該当事項はありません。

取引関係：該当事項はありません。

6. 譲渡株数及び発行済株式総数に対する割合

譲渡株数 : 5,900 株

発行済株式総数に対する割合 : 98.3%

7. 譲渡前後の所有株式数及び所有割合

譲渡前 : 5,900 株 (98.3%)

譲渡後 : 0 株 (0%)

8. 今後の見通し

当社は平成 20 年 3 月期よりフジキャスティング株式会社を連結子会社といたしておりましたが、現在に至るまで同社には売上がなく、また、平成 21 年 3 月期において当社が保有するフジキャスティング株式会社の株式（当社の出資金：2 億 9,500 万円）は全額評価損を計上しており、また同社に対する貸付金に対しては担保差入分以外の全額を貸倒引当金として計上しておりますので、今回の異動が当社の単体・連結の業績に与える影響は軽微であります。

なお、今回の株式譲渡により売却益として 9 百万円を計上することになります。

当社の今後の展開につきましては、既存事業である不動産利用事業における賃貸収入の維持と拡大ならびに自動車販売事業の一層の充実化を図ることによる収益増大を図る一方で、販売管理費等の経費削減等、可能な限りの合理化を図ることにより、事業効率と収益性の改善を図り、事業収益基盤の強化に取り組む所存であります。それぞれの事業における収益増大のための具体的な施策につきましては、鋭意検討中ではありますが、埼玉県本庄市の弊社ショッピングセンターの再開発によるテナント賃貸収入の増大および中期的な経営戦略の一環として電気自動車をはじめ環境対応型次世代モータービークルの開発・販売等を含めた方策の検討を開始しております。これら方策につきましては、今後、重要な進捗がございましたら、積極的な情報開示をして行く所存であります。

以上